

## 水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（7月1日現在）

### ■ 耕種概要等

- ① 品 種           はれわたり
- ② 圃場造成        秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理        種子消毒後に浸種、キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機           V溝播種機
- ⑤ 播種日           4月24日
- ⑥ 播種量          乾籾 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量          窒素成分 10kg/10a 程度 (LP100)
- ⑧ 雑草防除        4月23日ラウンドアップマックスロード  
                      (畦畔際の雑草発生量が多かった部分のみ)  
                      5月12日ノミニー液剤  
                      5月31日プライオリティジャンボ

### ■ 生育状況

今年は気温が高めに経過していることから、イネの生育も平年より早まっています。

7月1日現在、イネの草丈は54cm程度で、㎡当たり茎数は620本程度です。生育ステージは穂首分化期に達しております。生育は順調で、十分な茎数が確保できているため、10cm程度の深水管理をしています。



圃場全景



生育状況

## ■ 栽培管理のポイント

- ・ 地固めのための中干しは不要ですので、用水が止まる圃場では7月以降は天水を溜めるようにします。
- ・ 一発除草剤による雑草の取りこぼしが多い場合は、中・後期除草剤での防除が必要ですが、残草している草種によって選択する除草剤が異なります。除草剤の使用方法に不安があるときは、農林総合研究所にお問い合わせください。

※農薬を使用するときは、必ず最新の農薬登録情報を入手して、直播栽培に登録があることを確認してください。

- ・ m<sup>2</sup>当たりの苗立数が目標苗立数である 100~140 本を大きく上回った場合、生育が過繁茂になることで幼穂形成期頃の葉色が低下し、穂数や一穂粒数が減少することがあります。
- ・ この対策として、幼穂形成期に窒素成分で 2kg/10a 程度（硫安などの速効性肥料）の追肥することが有効です。

技術の内容を詳しく知りたい方は以下を参考にしてください。

### 【令和4年度指導参考資料（一部抜粋）】

#### 津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稲乾田直播栽培での追肥効果

- ・ 幼穂形成期の追肥によりm<sup>2</sup>当たり粒数が増加する。
- ・ 玄米千粒重は並~やや優り、登熟歩合は同程度となる。
- ・ 玄米タンパク質含有率はやや高くなるが、玄米品質は同等となる。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R4-ss1.pdf>